

● 里山展

火曜日から京田辺市中央図書館の甘南備ギャラリーで2023年度の里山展を開催してきました。ご芳名を記入いただいたのは112名の方方で大多数の皆さんは眺めて通過されるのみでした。

里山の会は年間のイベントが100回ぐらいになり、それに里山農園は火曜と土曜日が作業日になっています。加えて木津川の希少種の調査や除草作業を定期的実施していますので、かなりの量の活動になっています。そうした活動を継続できているのは「自然を大切にする仲間の輪を大きくする」というスローガンの実現に基づいて、そしてその中で、このための運動になればと考えて活動を続けています。今年の里山展から、さらに充実した展示会するために多くの皆さんのご加入をお願いいたします



● 炭焼き体験

いつ頃まで継続できていけるのかと語りながら炭窯に原木を窯詰めしました。一度の炭焼きで生産できるのは260kg~300kgのものができ上がります。原木が炭に出来上がるのは1/5の重量になる計算ですから、1,300kg少なくとも軽トラック4台分以上の原木を用意しなければなりません。かなり大量の原木が必要になります。この炭窯で木炭が変化するに一番の原木の大きさは、長さが1m10cmで太さが14cmの大きさであれば、使いやすい大きさの製品に出来上がるとされています。ですから窯詰めする前に原木の長さや直径を整えておかなければなりません。そして山から切り出してから1か月ぐらい乾燥させておくことが適当だといわれています。すなわち一か月前に原木を切り出しておくことが必要となるわけです。今回行った取り組みの原木は1年前に切り出して屋根の下で十分すぎるくらいに乾燥したものでしたので着火して排出される煙に含まれる水分は少なくなるだろうと予想されました。昨年二回目の炭焼きは完全に灰になってしまったので燃焼用の空気遮断が遅くなってしまったのではないかと推定されます。今回はご指導を植西千宇さんにご指導を頂き、空気遮断を行いました。また排煙装置についても木酢液採取は上手くできないのではないかと予想して原点に戻ってのやり方を採用しました。植西さんは91才になっておられますがとっても元気で、この冬も冬山に3回も行かれたそうです。貴重な経験をたくさん教えていただき、ありがとうございました。



● フィランソロビー協会から来年度も寄付がいただけます

先日2023年度の活動計画の提出を求められました。急いで作成しメールをいたしましたところ、詳しく単価や規模の説明と活動内容がよくわかるようにと再提出が催促されました。期日が迫ってきているからとのことでした。その結果、2023年度にも近畿を代表してやましろ里山の会が寄付先と選定された模様です。ありがたいことです。私たちは全国のゆうちょ銀行からの寄付なので各地に存在するゆうちょ銀行において活動の展示会をさせていただけないかと強く働きかけてお願いしてきました。ゆうちょ銀行ではフロア部分の貸し出しは行っていないので広告物として料金を払ってなら活用は可能との返答をいただきました。

●親子花見乗船体験

いよいよ桜の季節になってきました。第15回親子花見乗船体験（今年は4月1日）を行います。いつものように摂南大学エコシビル部の学生さんの支援が決まりましたし、綴喜西部土地改良区の協力も頂けることになりました。府営団地連合自治会も会場地の提供の了解も整って大筋の大事な急所は揃いました。去年は各地方から多くの皆さんがおいでになって楽しいひと時を過ごせました。今回も受け付け規模を先着200人として20日から業務を始めますのでよろしくお祈いします。参加料は無料ですが、保護者同伴をお願いします。

●春の野草を食する会

続いて4月8日には里山農園での「春の野草を食する会」を予定しています。これも昨年と同規模の先着50組の受付で実行しますので、よろしくお祈いします。

●理事会

2022年度活動を振り返り2023年度の活動方針と予算を決定いたします。今年は理事の任期満了の年でもあります。新理事として里山の会の執行部として活動してみようという社員の方の名乗りをお待ちしています。開催予定：3月24日（金）13:00～16:00 京田辺市中央公民館または中部住民センターせせらぎで開催します。

●河川レンジャーとの話し合い

去年は異常高温の夏が続く魚とりは中止としました。その折に使用する道具類を木津川事務所に借用を申し入れますと、河川レンジャーの取組なら容易に協力できますとの返答で、願ったりかなったりとのことでしたが、肝心のレンジャーとの連携が取れず、その後も疎遠な関係が続いてきましたが、地域説明会では関係改善が進み、2023年度の当初に話し合いを持ってはどうかと呼びかけました。多忙な時期ですが、ご出席を頂ければ幸いです。4月7日（金）13:00～15:00 京田辺市中央公民館

●木津川クリーン作戦のまとめの会が開かれる

コロナの関係で3年ぶりに開催され24団体570人の参加で成功したと報告されました。

●桜谷先生が来訪

春の昆虫に出会うため里山農園付近で京都では要注目種であるハダラハルカなどを目指して調査を行う予定で、名古屋から来ていただきます。里山の会からは昆虫関係者が同行する予定をしています。発見を期待しています。

●小川芳也さんの松江通信 No.23

川違え等により形成された出雲平野では、新田開発が積極的に行われ人口も増大したものと思われます。出雲平野の発展に伴い洪水はん濫による被害も増加した筈ですから、住民はその対応に苦慮したことでしょう。斐伊川の流出先である宍道湖は、出雲平野東部に接している（2022年10月20日の週刊ニュース951号を参照）広い所で約6kmの幅を有していますが、宍道湖唯一の流出河川である大橋川の川幅は約140mと非常に狭い狭小部となっています。河川は一般的に下流に進むにつれて河床こう配は緩やかになり水路幅は広くなります。斐伊川も河床こう配は同様の傾向ですが、水路幅は宍道湖で広がったと思うとその下流の大橋川で急に狭くなるという特異な地形を有していることとなります。従って、宍道湖から大橋川へは流下しにくい状況となりますので、斐伊川から宍道湖に流出した洪水によって宍道湖の水位は上昇しやすく、一度上昇した水位は低下するのに長い時間が掛かることとなります。この続きは次回に・・・